

広報委員が地域の皆さんに
インタビュー!

今年の春から観光案内所で働く 「地域おこし協力隊」の3人にお話を伺いました。

(取材・前田卓秀)

Q1. 新島に移住する
きっかけは?

去年、式根島・新島で堤防釣りにチャレンジしようと思い、はじめて来島しました。島内のみなさんが一見客かもしれない私に対してあたたかく接してくださったことに感動して、新島村の転職先を探し始めました。

Q2. 新島でハマっている事は?

仕事帰りや休日に堤防や港に行き釣りをすることです。釣りをやるといっても初心者なので、勤務後の時間に海へ行き道具や仕掛け、釣り方を教えていただく毎日です。わたしも徐々に道具を揃え、最近、海に竿を出せるようになりました。毎日学びがあり、釣れない日も充実しています!



牧野春美 (まきのはるみ) プロフィール

1992年生まれ、海に憧れを持つ神奈川県相模原市育ち。女子美術大学卒業。広告制作会社勤務/趣味で東京湾のアジ船の乗り子バイトを経て、今年の5月から新島生活をスタート。

Q1. 新島に移住するきっかけは?

理想の生活を求めて新島にきました。遡ると2013年頃から、知人の紹介で式根島でバイトしたり、毎年遊びに来たりしていました。自然豊かで、ゆったりした時間の流れ、外に出れば、島民同士でちょっと立ち話。子育てにもいい環境ですが、我々大人にとっても、限られた選択肢の中で気の向くままに過ごす。そんな生活を求めて移住しました。

Q2. 新島でハマっている事は?

アフターファイブ(17時退勤後の時間)を楽しむことです。近所のワンちゃんのお散歩に行ったり、漁船で海へ釣りに出たり露天温泉に入ったり、もちろん家族との交流の時間も。仕事が終わってから、好きな事ができるこの新島LIFEにハマります!



河原誠 (かわはらまこと) プロフィール

1993年生まれ。高校卒業まで千葉で過ごし、中国の大学へ進学。大手IT企業に務めたのち、地域おこし協力隊を活用して新島へ。



永井絢女 (ながいあやめ) プロフィール
 1994年生まれ、宮城県出身。大学卒業後はカナダとニュージーランドで働く。国内外のカフェ、ホテル、ゲストハウス、農園、牧場などを経験する。現在スペイン語を勉強中。

Q1. 新島に移住するきっかけは？

もともと移住先と起業先を探すために各地を旅していましたが、コロナ禍で海外に行けなくなり、国内を転々としていました。八丈島や屋久島などの離島で働いていた経験から島移住に興味を持ち、地域おこし協力隊制度を通じて新島に来ました。

Q2. 新島でハマっている事は？

毎日欠かさずコーヒーを淹れるようにしています。時間を見つけてお菓子づくりをしたり、近所の民宿の犬を散歩させたり、最近では近隣の島巡りをしたりと日々充実しています。

Q3.

「新島村観光案内所」ではどんな仕事をされていますか？

新島観光協会から引き継いでいる業務が多く、来島前の問い合わせや観光案内、キャンプ場・BBQ場の予約受付などです。



▲左から、河原さん、永井さん、牧野さん

観光協会の時と大きく違うのは、協会という制度がなく、全事業者対象になる点です。また、宿泊先の斡旋はできず紹介だけ可能、などが大きな違いとなります。現在はお客様のニーズに対応すべく、島内事業者情報の確認を行い、HPや観光マップなどの情報の追加・更新に取り組んでいます。

【地域おこし協力隊とは？】

地域おこし協力隊とは、総務省の取り組みの一つで、課題を抱える地方自治体に人材を受け入れる制度です。

主な役割としては、任期中（概ね1年～3年）に地域に移住し、実際にそこで暮らしながら、さまざまな地域への協力活動を行うこととされています。

東京都の離島でもこれまで大島、利島、神津島、三宅島、八丈島などで募集されています。神津島には地域おこし協力隊から移住して、村会議員になった方もいます。

新島村では観光案内窓口を立ち上げるにあたり、地域おこし協力隊を令和4年12月28日から令和5年2月13日まで募集しました。たくさん応募の中から、書類選考、オンライン面接、新島での面接を経て、3名の地域おこし協力隊が新島村の仲間になりました。

村は、地域おこし協力隊募集

要項の中で「お客様のご視線」を持ちながら村職員と協力し、観光案内の業務をつくってもらいたい。さらには、来島者が減りがちな冬場に向けて、観光だけではなく、島の人々との出会いや島の文化を体験したり、ワークショップやリモートワークでも快適に過ごしたりできるようにプランなど、島の新しい過ごし方の企画提案をしてもらいたい。」としており、新島のこれらの観光業務に大きな期待を寄せています。

4月から実際の業務が開始となった観光案内所では、これまでの窓口対応やキャンプ場の受付業務はもちろん、SNSでは観光情報の発信や、キャンプ場の空き状況、新島の施設見学レポなども掲載さ



◀QRコードを読みこむと、新島観光案内所のツイッターを見ることができます。

れており、便利かつ新島を深掘りできるので、観光客のみならず村民にもフォロワーが増えていきます。インスタグラムのフォロワー数は約1500人、ツイッターのフォロワー数は約4000人です。（7月17日現在）

村にとっては人材育成の場となり、協力隊にとっては業務を通じて村への貢献とスキルアップが図れる事業となっております。

島民の皆さまにおかれましては、協力隊の方々が自分の特性を活かして島の課題解決に力を発揮できるように、暖かい目で見守っていただきたくお願い申し上げます。

小久保利佳

議会も新しいメンバーになって2回目の定例会。一般質問に立った議員も、各々の観点から質問をしている。住みよい島づくりのために、村民の声をよく聞いて、村民と共に良くしていくことが我々議員の仕事だと思う。

スピーカースで取り上げられている、地域おこし協力隊の方々は、慣れない島生活を送りながら、新島のために船客待合所内の観光案内所でお仕事をされている。道で会った時には、気軽に声をかけてあげてほしい。島外から来ている人たちが、新島のために頑張ってくれているのだから、もともと島の間である我々はもう少し考えるべきではないだろうか？

青沼 弘